

## 福岡第2分所跡に追悼碑を建立する委員会発足

4月20日長崎県教育文化会館で、POW研究会の笹本妙子事務局長の講演と、福岡捕虜収容所第2分所跡（長崎市香焼町）に追悼碑を建立する委員会の発会式が行なわれました。福岡第2分所をめぐっては、数年前から追悼碑建立の計画が持ち上がっていましたが、最近ようやく用地のメドが立ったことから建立委員会が正式に発足し、併せて、捕虜問題に詳しい笹本事務局長による長崎県内の捕虜収容所（計4カ所）についての講演が行われることになったのです。

笹本事務局長はまず香焼町にあった福岡第2分所について説明しました。ここには最も多い時で1500名もの連合軍兵士が捕虜として収容され、川南造船所での労働に使役されていました。過労や栄養失調で多くの捕虜が病気にかかり、終戦時までに72名が亡くなりました。現在香焼中学校となっている跡地には、小さな案内板が設置されています。



次に佐世保市の相当ダム付近にあった第18分所では、265名のアメリカ人捕虜が収容され、相当ダムの建設工事に使役されました。そのうち約20%に当たる53名が亡くなりました。ここには亡くなった捕虜全員の名前を刻んだ立派な慰霊碑が建てられています。

それから、佐世保市江迎町にあった第24分所は、275名の英、豪、米などの捕虜が収容され、潜龍炭鉱で労働させられました。終戦までに20名が亡くなりました。現地には捕虜収容所跡地であることを示す銘板が設置されています。

### 第2分所跡の案内板

最後に長崎駅の近く長崎市幸町にあった第14分所には、約500名の捕虜が収容され、三菱長崎造船所での労働をさせられていました。1945年8月9日に投下された原爆の被害を受けて、収容所の建物は全壊、当時約200名いた捕虜が被爆してそのうち8名が亡くなりました。またそれ以前に100名を越える捕虜が病気で亡くなっています。現地には収容所があったことを示す案内板が建てられています。当時この収容所において、ご自身も被爆しながら生き延びたオランダ人元捕虜のウィリー・ブッヘルさん



追悼碑建立委員会代表  
朝長万左男氏

（93歳）が、今年3月に被爆者手帳を取得し、4月18日から23日まで長崎を訪れました。笹本事務局長は講演の中で、全国各地の捕虜収容所跡地に建てられた慰霊碑や記念碑についても紹介し、第2分所跡に追悼碑建立への協力を呼びかけました。

講演の後、日赤長崎原爆病院元院長の朝長万左男（ともながまさお）氏を代表とする「福岡俘虜収容所第2分所犠牲者追悼碑建立委員会」が発足しました。これに先立ち追悼碑建立準備委員会の努力により、長崎市が香焼中学校の体育館前の土地を、追悼碑の用地として提供してくれることが決まりました。追悼碑完成目標を来年8月とする具体的なスケジュールと、募金計画も発表されました。会場は約70名の長崎市民や市内の高校生で埋まり、長崎市民の平和を求める活動の力強さを感じる会でした。

尚このニュースに関しては、近々当会HP活動報告欄に掲載する予定の“長崎フィールドワーク報告記”にも掲載する予定なので、そちらも合わせてご覧ください。（小宮まゆみ）



講演する笹本事務局長